

福大の先生が 読んでいる本

福山大学に勤務されている教員の方々に「読んでいる本」「エッセイ」についてお話していただきました！他の人の読書体験が、新たな本との出会いや向き合い方につながるかも？

・野村先生／経済

『家族と社会が壊れるとき』

・重迫先生／人間文化

『エミリ・ディキンソンの詩の世界』

・泉先生／海洋生物科

『なぜテンプライソギンチャクなのか？』

※泉先生には著書をご紹介いただきました。
インタビュー全編は以下のQRコードから
ご覧いただけます。



※今回ご紹介いただいた本は、
福山大学附属図書館本館に
設置される特設コーナーにて
ご覧いただけます。

図書館倶楽部

メンバー募集中

図書館に興味のある人、何か活動してみたい人
誰でも大歓迎です！



ミーティング

毎週水曜日の昼休憩
に活動報告や、本を
紹介し合ったりして
います！



その他の活動

企画（読書会）、展示作成（郷土作家）、
図書館イベントのサポート（お話し会）等。



図書館倶楽部とは、本好きのメンバーによる図書館
を学生目線で創ることを目的として活動するボラン
ティア団体です。

お問い合わせ

Mail : toshokan@fukuyama-u.ac.jp

お問い合わせフォーム、もしくはメール、または図書館カウン
ターにお問い合わせいただければスタッフが対応します！



より充実した本生活を。

2024. 9.24

Library

News

図書館利用推進号

vol. **20**

特集 「福大の先生が読んでいる本」

福大の先生おすすめの本&エッセイあり

新たな本との出会いがあるかも…

人と本をつなぐ
図書館倶楽部

メンバーまいにち募集中！！

[活動風景の写真付きです]

きたる読書の秋
図書館で過ごしませんか？

発行 福山大学附属図書館倶楽部



海洋生物科 学科 泉貴人 先生

取材者：あかぎ



〈なぜテンプレインギンチャクなのか?〉

泉貴人/晶文社

Dr.クラゲさんこと泉貴人先生の歩みと、摩訶不思議なイソギンチャクたちを語りつくす！泉節炸裂の初著作。

Q.執筆のきっかけは？

イソギンチャクの本って世間になんだよね。ちょうど私10年の研究の節目で「完全に語りつくす」という形で10年分を好き勝手にしゃべらせてもらった。

Q.内容は？

半分はイソギンチャクの研究の話、もう半分は私の遍歴。今まで10年分の現場から見てきたことをそのまま発信する本。難しいところ読み飛ばしてもこの本の詳細は分かると思う。

Q.本はどこから読みますか？

目次を見て、興味がありそうな章から。その後、放置していた本を二年ぶりくらいに読んだりもする。

Q.伝えたいこと。

色んな読者に対応できるように書いた。何を感じてほしいかというより、こんな変な学者も海洋生物科学科にはいるんだよ、ということを知ってもらえればいかなって。

新種とかわかりやすい分野で、生物学の面白さというものをついでに勉強していただけたら冥利につきます。

それから研究自慢。教科書、指南書、エッセイ、図鑑。



人間文化 学科 重迫隆司 先生

取材者：楊菲菲



〈エミリー・ディキンソンの詩の世界〉

新倉俊一/国文社

この論集は、日本からディキンソンに捧げる手紙であり、言葉の花束である。

Q.本に出会ったきっかけは？

アメリカの詩人であるエミリー・ディキンソンを記念するために行われた日本の研究学会で全国の学者から論文をもらってこの本を出版する際に、私も自分の論文を研究学会に提出しました。その後、学会からこの本を手に入れました。

Q.本はどこから読みますか？

最初から本を読みます。この本も同じです。そのうちディキンソンと「仕事」という文章は今の若者に役立つかもしれないので、お勧めです。

Q.読後感を教えてください。

今までエミリー・ディキンソンについて個人で書かれた本はあったが、複数人で書いた本はなかった。できるだけ多くの日本人にこの詩人のいろんな側面を知ってほしい。また、2016年に「静かなる情熱」という映画が日本で公表された。もし興味を持った人がいれば、必ずその映画を見てほしい。

エミリー・ディキンソン生誕180周年。



経済 学科 野村宗訓 先生

取材者：K.K.



〈家族と社会が壊れるとき〉

是枝裕和 ケン・ローチ/NHK 出版

“社会ってマイノリティーの方も含んだ組織で動いてますよね”ということに気づかせてくれる。

Q.本に出会ったきっかけは？

民営化のパイオニア国であるイギリスで、サッチャー政権というのが1979年からおよそ12年続くのですが、その批判を本当にうまく表現しているケン・ローチの映画を見ていました。もちろん是枝監督の映画も見ていたので、その2人が対談している新書が出たのを知って飛びついて買いました。授業等での改訂版を学生さんに紹介しています。

Q.本はどこから読みますか？

まず、全体を斜め読みします。あとがきや第三者の方の解説がついている本はそこから読みます。また、ひらがなはあまり目に止めず、キーワードとなるカタカナや漢字を拾って読むことが多いです。

Q.読後感を教えてください。

写真も織り込まれており、とても読みやすいです。こういう世界が現実社会にある、あるいは社会を良くしようと思ったらこういうことをしないとイケないよね、といった内容が含まれているので、若い世代の人に紹介したい本です。

良い社会を作っていくためには…。

教科書でもあり、指南書でもあり、 ただ楽しめるギャグの本でもあり、 エッセイでもあり…みたいな。

普段本をどこからよみますか？

目次を見て、興味のある章から。たまに、興味のある章だけ読んで、その後放置していた本を二年ぶりくらいに読んだりもする。

だいたい全部読むほどの時間が無かったりするから、目次で興味のあるところから、って感じがな。だから目次ってすごく大事だと思う。

本をかいたきっかけ

基本的には、イソギンチャクの本って世間になんだよね。新聞に記事を取り上げて貰ったのを、編集者さんが見て声をかけてくれたから、じゃあ、って書いたわけです。

その編集者さんが研究の話を知りたいっていうので、じゃあもう完全にエッセイみたいな感じでどうですか、って言ったのは私。

ちょうど10年の研究の節目なので、イソギンチャクの研究について完全に語りつくすという形で10年分を好き勝手にしゃべらせてもらった。口調も完全に喋り口調です、この本。

内容は？

あらゆる教科書にも、研究業界の指南書にも、エッセイにも使える、みたいなよくばりな感じ。

半分はイソギンチャクの研究の話なんだけど、もう半分は完全に私の遍歴、来し方行く末。今まで10年分の、私が現場から見てきたことをそのまま発信するみたいな本にもなってる。研究自慢でもある。

あと、イソギンチャク図鑑まで入ってるから、この本。図鑑は、イソギンチャクがきれいな生物だな、って分かるようにしました。一部そんなきれいじゃないやついるけど……このきれいじゃないやつもなかなか面白いんだよ。俺が新種として見つけたイソギンチャクを含めて、超マイナーなイソギンチャクがいっぱい載ってる。イソギンチャクの解説も、俺流に独自の毒とユーモアを入れたような感じで書いてます。

難しいとこ読み飛ばしても、だいたいこの本の詳細は分かると思う。

伝えたいこと

色んな読者に対応できるように書いた。何を感じてほしいというより、こんな変な学者もいるんだよ、ということを知ってもらえればいいかな、と。特に、この大学の人で、海洋生物科学科以外の学生さんって、うちの学科をあまり知らないわけじゃない？俺を海洋生物科学科の代表と考えたら、像がおかしなことになるけど、こんな変なやつが在籍してるんだよ、ということが分かってくれればね。

それからこの本、編集者さんは生物学を全く知らない人だけど、生物を学んでこなかったことを後悔した、と言わしめたのよ。そんな風に生物学の面白さみたいなものをついでに勉強していただけたら、もう冥利につきます。分かりやすい分野だからさ、新種とかって。

読み込み具合は人それぞれ。深く読めば教科書にもなるレベルまで書いた。まさに教科書でもあり、指南書でもあり、ただ楽しめるギャグの本でもあり、エッセイでもあり……みたいな。もうすべての人に会わせられるような本にしてみました。してみたというか、編集者さんの力量なんだけど（笑）